

2019年度卒業時満足度調査 結果報告

- ・実施日： 2020年1月22日(水) II限 ※基礎ゼミIV最終回
- ・対象： 商学科2年生および国際コミュニケーション学科2年生(卒業予定者)
- ・対象者数： 316名(商学科138名/国際コミュニケーション学科178名)
- ・回答者数： 277名(商学科121名/国際コミュニケーション学科156名)
- ・回答率： 87.7%(商学科87.7%/国際コミュニケーション学科87.6%)
- ・結果： 以下参照

Table 1 2019年度卒業時満足度調査 全体および学科別平均

学科比較	設 問		2019年度				2018年度				年度差		
			全	商	国	差	全	商	国	差	全	商	国
	1	社会人として役立つ知識を身につける ことができた	4.2	4.3	4.2	0.1	4.2	4.1	4.3	-0.2	0.1	0.2	-0.1
商	2	資格取得に役立つ勉強ができた	4.0	4.2	3.8	0.4	3.9	4.0	3.9	0.1	0.1	0.2	-0.1
	3	インターンシップ制度があつてよかった	3.8	3.9	3.8	0.1	3.9	3.9	4.0	0.0	-0.1	-0.1	-0.2
国	4	海外プログラムがあつてよかった	3.3	3.2	3.4	-0.2	3.1	2.9	3.3	-0.5	0.2	0.3	0.1
商	5	授業が充実していた	4.0	4.1	3.9	0.2	4.0	3.9	4.1	-0.1	0.0	0.2	-0.2
商	6	先生方が授業の取り組みに熱心であった	4.1	4.2	4.1	0.2	4.1	4.0	4.2	-0.1	0.0	0.2	-0.1
	7	大学の設備が充実していた	4.0	4.1	3.9	0.1	4.2	4.1	4.2	-0.1	-0.2	-0.1	-0.2
	8	基礎ゼミがあつてよかった	4.0	4.1	4.0	0.1	4.0	3.9	4.1	-0.2	0.0	0.1	-0.2
商	9	クラブ・サークル活動を楽しむことが できた	3.0	3.2	2.9	0.4	3.0	2.9	3.1	-0.2	0.0	0.3	-0.2
	10	学校行事が楽しかった	3.8	3.9	3.8	0.1	3.8	3.6	4.0	-0.4	0.0	0.3	-0.2
商	11	大学が親身な就職指導をしてくれた	4.2	4.3	4.1	0.2	4.2	4.1	4.2	0.0	0.0	0.2	-0.1
商	12	大学が学生たちの活動を支援してくれた	4.0	4.1	3.9	0.2	4.1	4.0	4.1	-0.2	-0.1	0.1	-0.3
	13	キャンパスが快適であった	4.0	4.0	3.9	0.2	4.1	4.0	4.2	-0.2	-0.2	0.0	-0.3
	14	濃密な2年間を過ごすことができた	4.1	4.1	4.1	0.0	4.2	4.0	4.4	-0.4	-0.1	0.2	-0.3
国	15	たくさんの友人ができた	4.1	4.0	4.2	-0.2	4.1	3.8	4.4	-0.6	0.0	0.2	-0.2
	16	相談相手になってくれる先生がいた	3.8	3.9	3.7	0.2	3.8	3.7	3.9	-0.3	0.0	0.3	-0.2
	17	コースの中身が充実していた	3.9	3.9	3.9	0.0	3.9	3.7	4.1	-0.4	0.0	0.2	-0.3
	18	大学の雰囲気が自分に合っていた	4.0	4.0	3.9	0.1	4.0	3.9	4.1	-0.3	0.0	0.1	-0.2
	19	学生生活に満足した	4.1	4.1	4.1	0.1	4.2	4.1	4.3	-0.3	-0.1	0.1	-0.2
商	20	受験生の知り合いがいたら、 埼玉女子短期大学に入学をすすめたい	3.8	4.0	3.7	0.2	3.9	3.8	4.0	-0.3	-0.1	0.2	-0.3
全項目平均			3.9	4.0	3.9	0.1	3.9	3.8	4.0	-0.2	0.0	0.2	-0.2

凡例

	高評価項目(全体平均3.8以上)
商	商学科>国際コミュニケーション学科
国	商学科<国際コミュニケーション学科

※5%以上の水準における有意差が認められた場合は太字、有意傾向は細字

※5%以上の水準における有意差が認められた場合は太字、有意傾向は細字

2019年度卒業予定者回答傾向概要

- ① 学生生活に満足した学生（やや満足・大変満足）が全体の7割5分（昨年度7割強）
- ② 就職指導に高評価（昨年度と同様）
- ③ 教員の取り組み、基礎ゼミ、授業に対し高評価（昨年度並み）
- ④ 全体として学科間差縮小（商学科高評価項目多数）
- ⑤ ポジティブコメント優勢ながら、昼食時の座席の不足やWi-Fi設備、体育館の冷暖房に不満の声

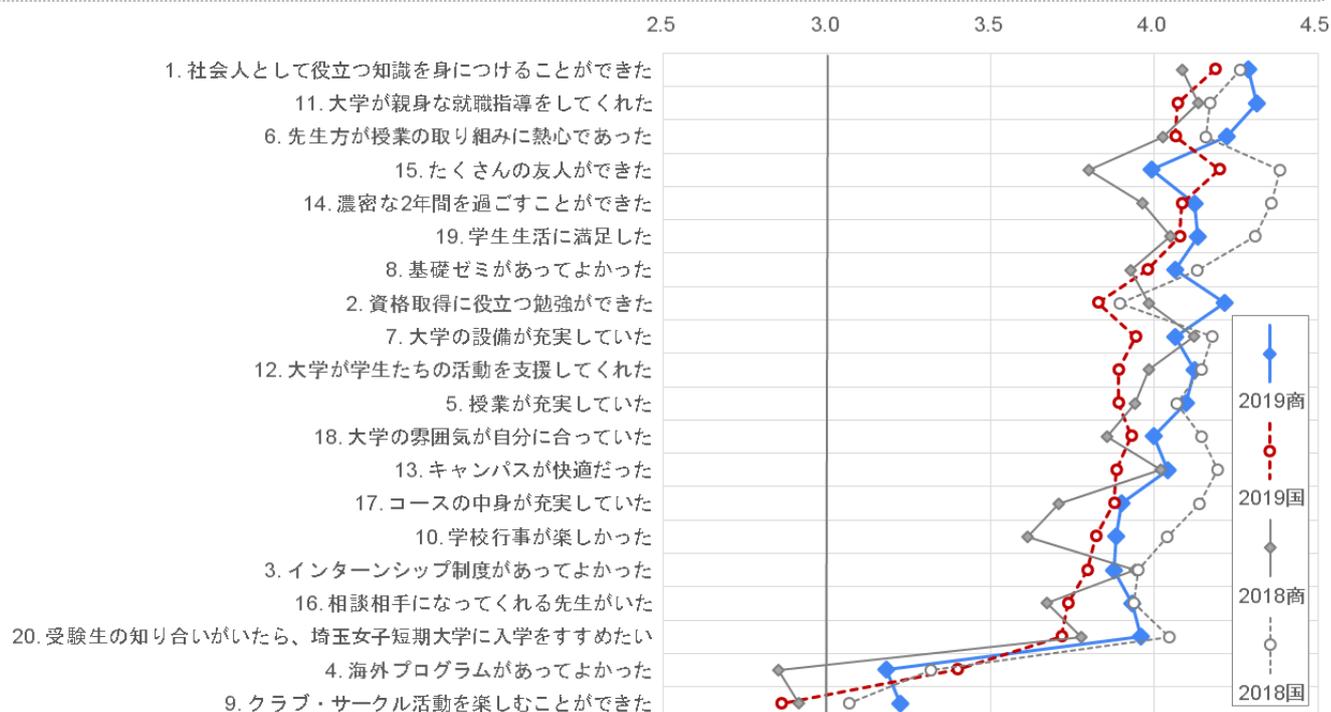


Figure 1 2019年度および2018年度の結果（2019年度全体高評価順）

●高評価（3.8ポイント以上）および低評価（3.2ポイント以下）項目の分析

全体の平均点が3.8ポイントを越えた項目は、20項目中18項目に上り（詳細はTable 1参照）、昨年度と同様に幅広い側面について高評価が得られた。例年と同様に、社会人準備としての知識獲得や就職支援に対して高い満足が見られた上、昨年度より追加された「14. 濃密な2年間を過ごすことができた」に対しても高い評価が得られた。「企業に近いキャリア短大」「濃密な2年で早く社会で輝く」という広報上のキャッチコピーと学生の実感の一致を今年度も確認することができた。また、「6. 先生方が授業の取り組みに熱心であった」「8. 基礎ゼミがあつてよかった」「12. 大学が学生たちの活動を支援してくれた」「5. 授業が充実していた」といった教育面の項目においても昨年度に続いて高評価が得られた。

一方の低評価項目（3.2ポイント以下）は、「9. クラブ・サークル活動があつてよかった」のみであった。「4. 海外プログラムがあつてよかった」も例年低評価項目であったが、プログラム参加者が増えたため、3.3ポイントまで上昇した。

以上